

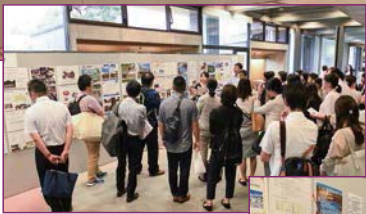
サマーキャンプ報告



H.E.Cサイエンスクリニック
平山大徹

会長の中村慶子先生がライフワークとして力を入れている、小児糖尿病サマーキャンプ。毎年全国約50カ所で実施されています。日本糖尿病療養指導学会集では、3年前から各地のキャンプの魅力をポスター形式で紹介していますが、今回は、展示だけでなく発表の時間を設けて、18のキャンプの生の声を届けました。

今年は台風や地震など自然災害が多発し、キャンプも少なからず影響を受けています。キャンパーとスタッフの安全確保は、運営者にとって大きな課題となっています。そのため、ディスカッションでも、各キャンプで事前にどのような準備をしているのか、マニュアルにはどのような内容を記載しているのか、といった防災面に関する具体的な質疑応答が行われていたのが印象的でした。



CDE Meeting

▶進行役



中村学園大学
大部正代



松江赤十字病院
佐藤利昭

このプログラムは、日本糖尿病療養指導学会の目的の1つ、地域糖尿病療養指導士（CDEL）の連携を実現するための意見交換会でした。大きなテーマとして、「CDELの質の向上」「CDELとしての活動」が設定され、各団体が現状や課題を報告しました。「質の向上」では、それぞれの認定・更新・研修の形を共有し、「活動」では、世界糖尿病デーでの街頭活動や市民講演会での役割が紹介され、地域の糖尿病啓発を下支えするCDELの役割が強調されました。

最後に清野理事長が、「CDELは、団体の歴史の長短にかかわらず、患者さんにより療養指導を行いたいという志を持つ皆さんの集まりです。お互いに助け合い、組織の成長を目指してほしい。日糖協は、地域の立場を可能な限り尊重して、各団体が自主的に活動できる環境づくりを目指し、療養指導士の活躍を支援したいと思います」とコメントし、拍手喝采を受けました。

